事前登録制

会場開催及びオンライン配信のハイブリッド開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、WEB開催のみになる可能性があります。

Japan. Committed to the SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

高知大学防災推進センターシンポジウム

「避難遅れ」をなくすために私たちは何をすべきか？

11/13(日)

13:00〜15:30

- 開会の挨拶／**櫻井 克年**(学長)
- 趣 旨 説 明／**笹原 克夫**(高知大学防災推進センター長)

高知大学メディアの森
6階メディアホール
(高知市曙町二丁目5-1)
及びオンライン配信

※お車でご来場の場合は駐車料金が必要となります。
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

第一部 「避難遅れ」を減らすための視点

1. **行動変容モデルに基づく避難行動 その可能性と限界**
   大槻 知史(高知大学教授)
2. **市街地高校の「津波避難」を実質化する挑戦**
   伊藤 創平(太平洋学園高等学校教諭) 藤岡 正樹(高知大学准教授)
3. **地域の暮らし・文化を尊重した防災・減災の取り組み**
   定池 祐季(東北大学災害科学国際研究所助教)
4. **水害経験を踏まえた「避難遅れ」を出さない地域づくり ―サツキPROJECTの挑戦―**
   津田 由起子(ぶどうの家真備代表)

第二部 パネルディスカッション

専門知を生かしつつ、防災と避難を住民の手に取り戻すには?

閉会の挨拶

本家 孝一(理事〈研究・医療・評価・IR担当〉)

申込方法

1. 二次元バーコードから専用申込フォームへアクセス
2. 登録頂いたアドレスに参加方法等を記載したメールを送ります。

kk03@kochi-u.ac.jpのメールが受信できるようにご設定ください。

高知大学 Kochi University

【主催】国立大学法人高知大学

後援:高知県、高知市、高知県教育委員会、高知市教育委員会、NHK高知放送局、高知新聞社・RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、エフエム高知、朝日新聞高知総局、共同通信社高知支局、日本経済新聞社高知支局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、高知工科大学、高知県立大学、高知学園大学、高知工業高等専門学校、高知リハビリテーション専門職大学

早期避難実現への仕組みづくりを

豪雨災害のリスクの非常に高い地域であり、また地震災害時の津波避難の必要性も高い地域である、高知県における災害時の早期避難の実現には、行政側による避難情報の迅速な情報提供にとどまらず、情報を受け取った住民が主体的に被災リスクを認知し、住民間で互いに避難行動の誘発や避難支援を行いながら地域全体として早期避難につなげる社会的な仕組みが必要となります。
避難遅れをなくすために一人一人がどのように行動すれば良いのか、「地域の災害文化や平時の地域活動と大学の専門知の連携」に焦点をあてて事例を交えながら紹介します。

プログラム詳細

1 行動変容モデルに基づく避難行動 その可能性と限界

大槻 知史（高知大学教授）

私たちには「自分だけは大丈夫」と思い込む脳のクセがあり、災害時には逃げ遅れの大きな原因になります。そこで昨年度は行動変容理論を紐解きながら、市民一人一人が「リスクを認識して」「気持ちのスイッチを入れて」「避難につなげる」の情報提供のあり方を考えました。でも実際のところ、それだけでは市民の避難を後押しするには不十分です。では、どうすればいいのでしょうか?一緒に悩んでみましょう。

2 市街地高校の「津波避難」を実質化する挑戦

伊藤 創平（太平洋学園高等学校教諭）
藤岡 正樹（高知大学准教授）

太平洋学園高等学校が位置する高知駅周辺は南海トラフ地震での津波浸水が想定されています。避難とは生命を守るための環境への「適応」だと考え、生徒や教職員が重点的に取り組んでいるのが「単一的な避難ではなく状況に合わせた多様な避難を可能にすること」、「事前の避難計画を一人一人が持てるようにすること」の2点です。この2点の取り組みと今後の課題について紹介します。

3 地域の暮らし・文化を尊重した防災・減災の取り組み

定池 祐季（東北大学災害科学国際研究所助教）

防災・減災の取り組みには、ふだんの暮らし・文化の中に組み込まれているものや、延長線上にあるもの、「お祭り」的な非日常のものがあります。ここでは、東日本大震災や北海道胆振東部地震の被災地などでの防災・減災の取り組みを紹介しながら、地域社会の中で続いていく活動について考えていきます。

4 水害経験を踏まえた「避難遅れ」を出さない地域づくり

ーサツキPROJECTの挑戦ー

津田 由起子（ぶどうの家真備代表）

小規模多機能ホーム「ぶどうの家真備」代表として高齢者の生活支援を続ける中で、水害避難や避難生活にたくさんの課題を感じました。そこから生まれたのが避難機能付き共同住宅「サツキPROJECT」です。ここでは建物（ハード）だけではなく、地域とつながった暮らし（ソフト）も大切にすることで被災後の地域生活の早期復旧も実現できます。西日本豪雨災害などの経験を教訓として踏まえ、「避難遅れ」を出さないためのポイントとその後の取り組みについて紹介します。

パネルディスカッション

専門知を生かしつつ、防災と避難を住民の手に取り戻すには?

第一部における話題提供を元に、行政が提供する防災情報などをきっかけとして、情報を受け取った市民が、どのように災害のリスクを認識し、自らの避難行動のきっかけとするかという行動変容と、それをどのように大学等の専門知が支援できるかを、パネルディスカッション形式で議論します。

本シンポジウムについてのご不明な点は下記までお問い合わせください

高知大学 Kochi University 研究国際部研究推進課
〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
TEL.088-844-8891 E-mail:kk03@kochi-u.ac.jp